

- ・先週水曜日、3月15日に第76回の卒業式が行われた。
- ・学年主任が入学時から「最高の卒業式を！」と言い聞かせ続けた、その言葉どおりの素晴らしい卒業式となった。
- ・全員が姿勢よく、一糸乱れぬ礼、立ち振る舞いも美しく、厳粛な中にも温かく和やかな空気に満たされていた。
- ・コロナ禍による2か月の臨時休校とともに入学し、3密を防ぐマスク生活の中学3年間を送った学年。その意味で、最もハンディが大きいと思われた学年であったが、何かと制限の多い学校生活に耐え、マスクで感情を隠しながら静かに力を蓄えてきていたことが、3年生になって明らかになってきた。
- ・まず、3年ぶりの修学旅行、心配な学年であれば5月の実施は見送ったところ。しかし、「この子達ならやってくれる」という自信を私達にもたせてくれる学年だった。学年集団としての落ち着き、安心感と安定感で今年度の雄山中学校を正しい方向にリードしてくれた。体育大会も合唱コンクールも、整然と静かに練習に取り組んでいたが、本番に仕上げてきたものはどれも非常にレベルが高く、「あっ」と驚かされる仕上がりであった。我慢することの多かったコロナ禍の学校生活を通して、いつの間にか通常の学年以上の「力」を身に付け「心」を成長させてきたものと思われる。言葉どおり「逆境を好機（チャンス）に変える」ことができたのかもしれない。
- ・この子供たちのがんばりの陰には、間違いなく家庭の支えがあった。保護者のみなさんが、子供の「残念」な気持ちや「悔しい」気持ちを受け止め、和らげ、励まし続けてくれたからの成長であった。家庭における子供たちへの愛情あふれる支援が、結果として3年間コロナ禍の学校運営・学校教育を支えていた。そのことに感謝したい。
- ・このよくできた3年生の後ろ姿に感化され、1, 2年生がよき伝統を受け継いで順調に育ってきている。
- ・3年生の「卒業を祝う会」も、先週の立ち会い演説会も、レベルの高い素晴らしいものであった。このような式や集会をはじめとして、全校生徒が一堂に会して行う行事を見ていると、雄山中学校全体が年々成長しているように感じられる。
- ・次年度から、順調にいけばマスク生活も終わり、4年前の通常の学校生活が戻ってくることになるが、次年度、学校全体で力を入れて取り組みたいのは、話し合いを大切にした生徒の手による学校づくり。「生徒自治の学校」を作っていく試みである。
- ・これまで、授業や家庭学習、時間を守ること等の生活のきまり、そして、いじめや人間関係トラブル等の先生（の指導）任せにしていたことを自分たち自身の問題として捉え直し、話し合っ解決していく。そうする中で、仲間を大切に行動し、集団をよい方向に高めていこうとするリーダーが育ってくる。リーダーとして考え行動できる生徒を増やすことで、さらなる集団のレベルアップを図る。その「教育力のある集団」の中で、また一人一人がよりよく育つ。この「よい循環」を作り出したい。
- ・まずはクラスの学級会や班長会、班会議等から、話し合いや活動を通して小さな自信を積み重ねていくこと。班長をしながらリーダーとしての動き方、振る舞い方を学び、徐々に自信を付けていく。そして、班のリーダーから学級のリーダー、学年・全校のリーダーへと大きな集団を引っ張っていける生徒をどんどん育てる。この「生徒自治力」が、社会に出て世の中をよい方向へと変える力となっていく。
- ・まずは、「自分たちの力でいじめに立ち向かう」正義感のある生徒集団を育てていきたい。
- ・次年度も本校教育へのご支援をよろしくお願いします。